



このレビューはどれぐらい最新のものか？

レビュー執筆者は2018年末までの研究を検索している。

キャンベル共同研究とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、Hillman, K, Dix, K, Ahmed, K, et al.らによる「Interventions for anxiety in mainstream school-aged children with autism spectrum disorder: A systematic review (自閉症スペクトラム障害を持つ通常学級の学齢児童の不安に対する介入：系統的レビュー)」に基づいている。

この要約の作成のためのアメリカ研究機関からの財政支援に感謝の意を表す。

レビューに含まれているほとんどの研究にはバイアスのリスクの問題がいくつかあるが、これは主に、参加者を治療群に盲検化できないというやむを得ない制限に起因しており、推定された効果が上方に偏る可能性がある。

また、3分の1の研究では無作為化の記述にも限界があり、所見は注意して扱われるべきである。

このレビューの結果は何を意味するのか？

本知見は、ASDを持つ学齢期の子どもの不安症状を軽減するように設計された介入、特にCBTを支持するエビデンスを提供している。

これらの知見は、ASDの子どもおよび青少年における不安症状を軽減するための介入の有効性に関する以前の系統的レビューの知見と一致し、その上に築かれている。しかし、現在の所見にはバイアスのリスクがあるため、より大きなサンプルサイズの研究を行い、可能な限りバイアスの可能性を減らすことが有用である。



AMERICAN INSTITUTES FOR RESEARCH®